

2004年度の活動をふりかえって

海蔵地区人権・同和教育推進協議会
会 長 川 森 一 成

今年の海蔵地区人権・同和教育推進協議会の活動テーマは、いま大きな社会問題になっております“児童虐待”の問題をとりあげ、地区懇談会並びに人権を考える集いで地域の皆さんと共に学習しました。

地区懇談会には、6ブロックに延べ278名の方に参加していただきました。懇談会では、最近の傾向として親の愛情としての“しつけ”というよりは、一時の感情にまかせて親の権威をむやみに振りかざして子どもの心身を痛めつけている親が増えているのではという意見が参加された皆さんから多く出されました。

“人権を考える集い”には、北勢児童相談所から藤牧所長さんを講師にお招きして、専門



熱弁をふるって講演される藤牧所長さんと熱心に聴講される参加者のみなさん



2004.10.2 海蔵小体育館

うしろ姿



的な立場から、“子どもの虐待問題”について具体的事例をあげて易しく解説していただきました。(講演の詳細内容は、海蔵地区市民センターの図書室人権図書コーナーに講演録を備えていますのでご覧ください。)

子どもは未来の社会の宝ものです。子どもを健やかに育てることは大人の責任だと思います。今年度、熱心に活動にご参加いただいた皆さんには今後とも活動の核になっていただき、地域のみなさん共ども子どもの健やかな成長を暖かく見守っていききたいと思います。そのため、今年度の私どもの活動が、少しでもお役にたてば幸いです。



地区懇——児童虐待と子どもの人権”に参加して——

若 林 典 子
(海蔵小学校教諭)



児童虐待の痛ましい事件がニュースとなって社会を賑わしている昨今です。

懇談会では、2本の映画を見ました。わかりやすい内容だったので、児童虐待に関する情報や各機関の連携がよくわかりました。

「児童虐待なんて自分には関係ない」「あんなひどいことをよくてできるものだ」と多くの人が思われるでしょう。けれど、虐待というのは、児童の身体に外傷の生じる暴行を加えることだけでなく、児童の養育を怠ること、児童の心を深く傷つけることをも含んでいるのだと考えると、もしかしたら誰の身にも起こり得ることだと考えられるのかもしれない。

疲れていて、いらいらして、つい子どもに当たってしまうことはないでしょうか。

自分の思い通りにならないと、感情的になって、子どもをたたいてしまったり、「あなたはだめな子だ」等と子どもを否定する言葉を口にしまったことはないでしょうか。力に物を言わせて恐怖感を与え、言うことを聞かせようとしたことはないでしょうか。

あるいは、当然子どものためにやらなければいけないことを、罰としてやらなかったことはないでしょうか。

また、子どもの目の前で、醜い夫婦げんかをしてしまったことはないでしょうか。

心の関が第一線を超えてしまった時、ニュースで報道されるような事件になってしまうでしょう。けれど、心の関は誰の心にもあるのだという自覚を持ち、子どもを私物化せず、一個の人格として向き合っているかという自分への問いを持ち続けなければと思います。

孤独になると、人は否定的な見方をするようになります。弱い者へと当たっていきます。

孤独な人をつくらないう、地域が扉を開けて、声をかけ合い、地域の子どもたちを守っていける海蔵地区にしたいと思います。



原 稿 募 集

次回第22号の発行予定は、7月1日です。投稿をお待ちしています。 広 報 部